

創ろう！ 安心・安全・元気な街



小域福祉ネット
牛久

第28号
令和4年2月発行
牛久小学校区
小域福祉ネットワーク
広報委員会
2月・8月発行
発行責任者
志村 紀嘉



十二年目を迎えた
「安心生活見守り支援事業」について

平成二十二年からスタートした「安心生活見守り支援事業」も十一年目を経過し、地域の高齢化がますます進むなか、コロナ禍で新たな課題も浮き彫りとなり、いっそう本事業の重要性が顕著となってきました。牛久小学校区小域福祉ネットワークでは、三部会活動の推進の他、本事業を全体活動として取り組み『地域の安心・安全・元気な街』づくりを進めています。

◆地域の取り組み
具体的活動として、一人暮らしの高齢者・障がい者を中心に支援を希望する方々に、五つの見守り要素を折り込み、悩み・不安・困りごとがあれば相談にのり、同時に安否確認を行います。



(安心見守り訪問風景)

◆安心して暮らせる地域
支え合い、助け合う基本を実現するため、ともに支え合う仲間（訪問員）も募集しています。また見守り支援を希望する方も是非連絡先までご相談ください。ひとりでも多く共感できる活動を目指して『住み慣れた地域で安心して暮らせる』支援づくりを地域の総力で実現しましょう。

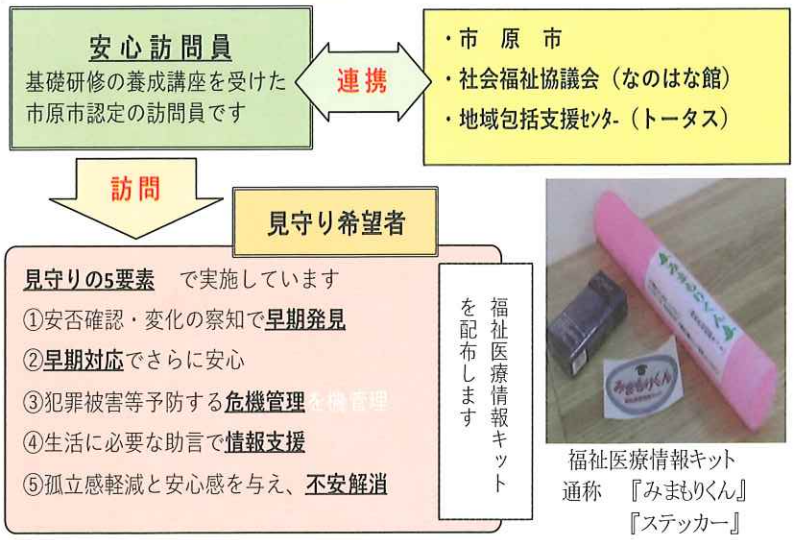
牛久小学校区人口統計

区分	H29.5.1		
	市全体	南総地区	牛久
人口(人)	278,468	22,076	65,34
高齢者人口(人) (65歳以上)(人)	75,511	8,377	2,415
高齢者人口割合(%)	27.1	37.9	37.0
一人暮らし高齢者数(人)	17,225	1,792	538
高齢者のみ世帯数(世帯)	31,986	3,380	1,008

地区別の支援対象者・安心訪問員の数 R3.12.10

見守り支援対象者数	安心訪問員数	地区名
2	7	牛久
15	9	皆吉
5	7	西国吉・大蔵
12	5	中
5	7	佐是
3	0	藪・岩
3	1	奉免
3	1	妙香
48	37	計

住み慣れた地域で安心して暮らせるための支援事業『安心生活見守り支援事業』のイメージ図



《連絡先》ネットワーク会長 志村 紀嘉 ☎ 090-8315-1587

福祉ネット牛久



高齢者部会長
兒井敏雄

牛久地区二十六町会を九ブロックに分けて各地区年一回茶話会を実施しております。

高齢者に対する市の取り組みやサービス、地域包括支援センター(牛久地区はトータス)からの最新情報を伺うと共に健康体操なども取り込み「楽しいイベント」として関心を持っていただけるように心掛けています。

また地域の伝統文化を支えているのは私たち高齢者です。という自覚のもと、色々なことに興味を持ち安心・安全・元気の町をつくりましょう。

今までの永く培われた経験を更に深め、その良い情報をお互いに交換できる場として茶話会を考えております。

なお茶話会のお知らせは町会の回覧及び老人会等を通じてご案内しておりますので、是非ご参加ください。

高齢者部会

各部会の活動



青少年部会長
小柳正公

新型コロナウイルス感染症の影響により、二年間ほぼ活動が出来ない状況が続きました。

そんな中、十二月に小学校一年生の子供たちと「昔のおもちやで遊ぼう会」が開催され、ともに楽しむことができました。

子供たちにとっても小さい頃の経験はとても大切だと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響により、二年間ほぼ活動が出来ない状況が続きました。

そんな中、十二月に小学校一年生の子供たちと「昔のおもちやで遊ぼう会」が開催され、ともに楽しむことができました。

子供たちにとっても小さい頃の経験はとても大切だと思います。



(缶ポックリ風景)



(あやとり風景)

青少年部会

そんな中でも、昨年十二月五日(日)に、『牛久を美しくする会』による養老川河川敷「川の里さんぽ道公園」(「なのはな館」より養



環境部会長
井上孝一

当部会は、町会長を主体とした活動のため、新型コロナウイルス感染症が一向に収束しない状況により思っていたように活動ができません。

そんな中でも、昨年十二月五日(日)に、『牛久を美しくする会』による養老川河川敷「川の里さんぽ道公園」(「なのはな館」より養

環境部会

老川への階段を下りた川沿いの楓橋までの整備に協力をさせて頂いたできました。

今後他部会との連携を保ちながら、計画をしている行事を進めていきたいと考えております。

あいあい広場



牛久小学校 最近の教育状況

牛久小学校では、令和二年から一人一台のタブレット端末が設置され、授業が行われています。

タブレットを活用して調べ学習をしたり、カメラを使って学習したことを記録したり、黒板には「デジタル教科書」が入っており、音声や動画が入った教材を使って、授業を進めています。

授業の方法や児童が、獲得する情報の量が格段に広がりました。

しかし、電子機器を使っていると、学力が身につくというわけではありません。今までのように本を読むことや手書きのよきことや手書きのよき情報機器をうまく組み合わせる必要があります。

教師も児童と一緒に楽しみながら、機器の操作に慣れていきたいと思います。

牛久小学校
情報担当
佐藤



タブレットに自分の考えを書き込むことができます。



タブレット画面は、電子黒板に映すことができます。

編集後記

今年は60年に一度の「壬寅(みずのえとら)」コロナ感染拡大で不安な日々ですが、冷静さを失わず「収束の決断」ができるといいですね。

山本 義雄 【広報委員会】